

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	あおば		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 28日 ～ 2025年 3月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 3月 19日 ～ 2025年 3月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員1人1人がご利用者様や保護者様1人1人の声に耳を傾け真剣に向き合い相談事には、迅速に対応するように心掛けている。	・利用者様や保護者様1人1人の声を逃さないように、対話を大切にしている。 ・相談事があがった場合は、チームで解決する体制をとっている。	・更に利用者様1人1人の声にしっかり答えて、利用者様が安心して過ごせるような場の提供を行っていきます。
2	・1人1人の特性に合わせた支援を行っている。	・保護者様から細かい聞き取りを行い、家庭や療育の中で出た課題解決に向けて各関係機関と連携し1人1人にあった支援を行なっている。	・保護者様の声や現場の声を大切にし、各関係機関と連携し障害の特性を理解し1人1人に合った療育を行います。
3	・2歳の子から18歳までの異年齢の子と関わる事が出来る。	・同じ空間で療育を行っているので、大きい子は小さい子の面倒を見ることができ小さい子は大きい子の真似をして生活習慣を身に着けることができる。	・お互いが助け合い認め合い、褒められることで自信をもって生活し自立に繋げていく療育を目指していきます。 ・相手を思いやる心・認め合う心・感謝する心等を育む療育を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースがやや狭く部屋数が少ない。	・パーティションで仕切ると各々の活動スペースが狭くなってしまう。 ・小部屋などが沢山あるわけではないので、個々の障害の特性に対応するにも難しさがある。	・個別のスペースが必要な時は可動式の仕切りで一時的に仕切るなどの対応をしています。又は、空いている部屋などを利用して対応していきます。 ・近くの広場などを利用し、活動の幅を広げていきます。
2	短時間勤務の職員等との細やかな部分の連携不足。	・業務が多様化し、時間をうまく調整することが出来ていなかった。 ・伝達（連携）の方法の工夫がされていなかった。	・全員が共通理解できるように、誰もが確認できる体制を整えていきます。言葉だけではなく、職員間の連絡ノートなどを活用し全職員が理解し意見し合える環境を作っていきます。
3	地域との交流機会や保護者同士の交流機会の企画不足	・療育内容や支援といった「本人支援」に重点を置いており「地域支援・地域連携」に対する取り組み不足が要因。 ・地域連携の話題は、職員会議等で話題に上がっていたが立案までに至っていなかった。	・保護者様同士の交流会等は、アンケートをとり保護者の方のニーズに答えていくようにします。 ・地域との交流は、事業所開放や行事などに地域の方を巻き込めるような活動を立案していきます。